

平成30年度第2回社会教育委員会議会議録

開催日	平成31年3月26日(火)			開会時間	14時00分	
会 場	市役所5階 503会議室			閉会時間	15時30分	
委員の 出欠状況	小林 榮	出	片山 義久	欠	久米 隼	出
	石川 毅	欠	高田 陽子	出	板垣 隆夫	出
	小田原 紀慧子	出	本橋 ふみ	欠	佐々木 麻由子	欠
	鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	欠		
	○村山 喜三江	出	南條 有希子	出		
	◎石山 貴宣	出	石原 規子	欠	◎議長 ○副議長	
傍聴者	なし					
事務局	【教育委員会】 戸部教育長 【生涯学習課】 横山課長、鈴木課長補佐、中野統括主査、西生涯学習推進員 【スポーツ青少年課 】 亀井課長					
議 題	(1) 社会教育推進に関する意見交換について テーマ「地域社会へ参加できない人にどのようにアプローチしていったらよい か」について(資料1、資料2) (2) その他					

1 開会

2 あいさつ

○戸部教育長

～あいさつ～

本日は、平成30年度第2回の社会教育委員会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

桜も咲き始め、この時期は新しい年度へ向かっての意欲を湧き立たせる季節ではないかといつも感じております。市内の小中学校では、小学校が22日、中学校が15日に卒業式も無事終わりました。学校も今日が修了式、明日から春休みに入ります。また、市役所のなかでも新年度の準備を進めている、そんな時期になりました。

日頃より、社会教育委員の皆様には、社会教育活動の実態や地域のニーズ等を、市民目線で客観的に把握をしていただき、地域住民の社会教育の期待や願いについて、市民と行政のパイプ役を担っていただき改めて感謝申し上げます。

さて、委員の皆様には今期のテーマである「地域社会に参加できない人にどのようにアプローチしていったらよいか」について、過日、アンケートにもご協力いただきました。それぞれのお立場からご回答いただき、ありがとうございました。

本日は皆様からいただいたアンケート結果をもとに、テーマについて視点を絞って、ご協議い

ただければと思います。限られた時間ではございますが、皆様からご意見をいただき、これからの和光市の社会教育行政の推進を図ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明

3 議題

○議長(議事進行)

本日は年度末のご多用中のところお集まりいただきありがとうございます。それでは、本日、お話し合いいただくテーマを確認いたします。議題1について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料1)(資料2)に基づき、生涯学習課統括主査が説明

前回の会議において、今後の会議の進め方についてご確認いただきました。本日の会議内容を踏まえて、委員の皆様の任期の区切りとなります、来年度の第1回目の会議(6月21日予定)でご意見としてまとめさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

過日、委員の皆様には今回のテーマ「地域社会に参加できない人にどのようにアプローチをしていったらよいのか」につきまして、

(1)各組織・団体の活動の工夫や、

(2)取組の効果

についてアンケートをお願いいたしました。お忙しいところご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

このアンケートに際しまして、久米委員から「地域社会に参加できない人とは、どのような人なのか定義をするべきである」というご意見をいただきました。

確かに、地域社会への参加意欲はあるが、体調が思わしくない、お仕事が忙しい、介護等家庭の事情があるなど、「地域社会に参加したくとも事情で参加ができない方」や、「あえて地域社会と距離をとることを希望し、参加を望まない人、かわり自体を望まない人」もいらっしゃいます。

そこで、本会議では、このようなご事情のある方を除き、これまで参加経験がないため地域での人間関係が築けていない方や参加方法がわからないといった「地域社会から孤立し、参加ができていない方」に焦点をあてて、ご意見を頂戴していきたいと考えてお

ります。

お手元の資料1をご覧ください。1 ページの中段、(参考)部分にもございますように、和光市には 60 歳以上 75 歳未満の方は約11, 000人、和光市の総人口の13～4%がいらっしゃいます。

この方々のお力を引き出すことが、ご自身がより健康的にお過ごしいただけることにもつながり、更に地域の力を高めていくことにつながると考えております。

また資料1の 1 ページ下段には、板垣委員のアンケートより、「地域活動の種類」をお示しいただいておりますので参考に記載させていただきました。

自治会やボランティアのような地域社会に貢献する活動ばかりでなく、「自分の好きなことを活かして、一人でも多くの人と交流し、つながること」や地域住民が笑顔になるような活動も地域活動と考えております。

本日は、委員の皆様のアンケートでも特にご記入の多かった、「シニア世代の社会参加」について、委員の皆様からご意見をいただきたいを思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○議長(議事進行)

ただ今、事務局から説明が終わりました。

議題1の説明に関しまして、ご質問等のある方がいらっしゃいましたらお願いします。

○議長(議事進行)

資料1の2ページ目「シニア世代の社会参加について」

初めに、(1)「地域に関わりたい」という地域住民を行動に移す後押しをする方法や行動に移るきっかけがつかめない人へのはたらきかけで効果的な方策や、情報発信、手段、仕組み等 について、委員の方にご意見をいただきます。どのような取組をされているかなど、資料2もご覧いただきながら、ご意見やご紹介をお願いします。

○村山委員

体育協会としては一市民スポーツということを考えています。スポーツをとおして元気であること、スポーツをとおして楽しい時間を過ごしていただくことを大切にしており、市との協働事業をとおしていろいろな事業を進めています。

シニアの方々を対象にグランドゴルフを実施しています。グランドゴルフの講習会に初めて参加した方が地域の会場で、知り合いを増やしている例も多くあります。とにかく元気な方が多く、寒い時期でもたくさんの方が参加されます。活動に参加する機会はなか

なかつかめないこともあります。一回教室に行ってみると想像以上に楽しい思いをしているという声をお聞きします。活動に楽しさを感じる人は事業にも休むことなく参加します。和気あいあいとしたなかで互いに元気をもらっている雰囲気があります。

スポーツがすべてだとは思いませんが、体験していただくとそのよさをわかっていただけます。これまでPRが少なかったのを、各自治会の回覧板を活用してお誘いをするようにしています。一人でも二人でも楽しいと感じてくださる方を増やすため、活動を進めています。

○板垣委員

私はまさしく団塊の世代です。会社に勤めてきて、地域に足がかりのない方が私も含めて多くいます。私がなぜ地域の活動に参加しているのかといえば、審議会の委員になったということがきっかけです。たまたま同じマンションに住んでいる方が委員を務めていて、後任として参加したことがきっかけとなりました。参加してみると、いろいろな方がいらっしゃいます。企業の中では、業界関係だけの人間関係となってしまう。多様とは言えないでしょう。最初に参加した審議会では、いろいろな方が委員をされていて、お話を伺っているといろいろな世界があるということがわかってきました。リタイアした後に、これまで知らなかった世界の方々とおつきあいができ、知り合いも増えました。いくつかの審議会の委員を経験していますが、市の施策に対して意見を述べることで、地域の者としても「役割」を果たすことができます。同期の知り合いと話す機会がありますが、活動にはあまり参加していないようです。「役割」を果たすことで、自身のやりがいもでてくるものです。

○久米委員

アンケートを受け取った時、「地域社会に参加することのできない人」をテーマに話し合いをしたいという点には同意できましたが、地域社会に参加できない人をはっきり決めなければ議論が難しいのではないかと思います。事務局からも説明がありましたが、地域社会から孤立し参加できない人や何らかのきっかけや機会がなくて参加できないという人もいます。板垣委員のお話のなかにもあったように、特に男性に多いのではないのでしょうか。男性については、地域社会においてその人が生き生きと生活できる、活躍できる役割があると参加しやすいと思います。市の審議会の委員を引き受けられて生きがいになっているという場合もあります。村山委員からは、その場所に行くことで「役割」と楽しみが発生してきていることが紹介されました。求めているものは一人ひとり異なるでしょうが、その人その人にとっての居場所が設定できるように、みなさんの活動をとおして多様な選択肢を提示し、地域のみなさんが選べるような和光市になってほしいと思います。

○小林委員

地域の中での「役割」というのはとても重要です。私も退職後は地域の中にいる時間が増えます。「市民」という立場を考えてみると、以前にはひとりの人が地縁と血縁という関係のなかでいくつもの「役割」を持っていたのでしょう。会社勤めだったシニア世代の方は、地域のなかで暮らすことが多くなりますが、それまでの地域での蓄積がありません。特に男性は地域での「役割」がないまま過ごしてきた方も多いでしょう。改めて立場を探すとするととても難しいものです。

団塊の世代の方、後期高齢者の方、この方々を含めて考えると、ホームページへのアクセスなどはどれぐらいの方々ができるのだろうかという思いがあります。さらに上の世代になると難しい方も多いのではないのでしょうか。このような方々には、回覧板や広報といった手段が重要でしょう。以前は広報は自治会や町会をとおして配っていたように思いますが、現在はどのようになっていますか。

○事務局（生涯学習課長）

今は各戸ポスティングをしており、新聞販売店にお願いしております。

○小林委員

回覧板などはちょっと声をかけて回すのでコミュニケーションもとれます。ポスティングの際もスタッフが声をかけることによって地域に住んでいるという自覚も促せるのではないのでしょうか。

○南條委員

シニアの方に直接アプローチする機会はほとんどありませんが、ひとつ例をあげてみます。谷中地区の開発が進んだ時に自治会の空白区ができたことがありました。公園予定地を利用して、市の担当課とともに昔遊びの会を催しました。子どもの遊びの会プラス地域の方々のイベントを実施しようという機運が高まり、企画しました。地域にチラシを配布して、焼き芋を焼こう、甘酒を飲もうという呼びかけもしました。子どもの遊び場づくりと地域交流を目的として市民団体がサポートをしていったのです。新しい住戸に引っ越してきた方にもポスティングをとおして呼びかけ、きっかけづくりを行ったことがあります。

○小田原委員

高齢の方はいつも温かく幼稚園をみてくださっているが、その方々がどのように地域社会に参加しているのかまでは把握できていません。幼稚園として、高齢の方々を幼稚園に招待する、子どもたちと触れ合っていただく機会を検討しています。個人情報という課題はありますが、何かの形でお役に立てるようにしていきたいと考えています。

○鳥飼委員

先ほど話のあった広報等の配布も「役割」分担の一つとして行っていた時期もありました。現在は、包括支援センターや社会福祉協議会などの窓口ができており、自治会や民生委員の活動も変容してきています。一人暮らしの方、家庭で過ごす時間の増えた方と顔を合わせて話をする機会が減ってきていることは事実です。

趣味をとおして地域センターや公民館などで地域とのかかわりは比較的多くあります。一方、体験教室などを企画しても参加者が少ないこともあります。人間関係も難しさもあるのかもしれませんが、口コミ、知り合いのつてを頼っています。

一度、経験するとほとんどの人は参加してくれます。知り合いの力を借りることも大切でしょう。公民館での活動に興味を示す方もいますが、積極的に参加する方は少ない状況です。このような方には、自分の好きなことを考えることがよいのではないかとアドバイスしたこともありました。自然の好きな方には、アグリパークでの活動を紹介しています。たくさんの方が参加していますが、こちらから先にあいさつをしていると人間関係ができます。関係づくりが大切です。

○高田委員

育てる会には21団体が加盟していましたが、少しずつ減ってきています。参加したい子どもは多いのですが、担い手が減ってきています。検討しなければならない課題です。来年度は「新倉ふるさと民家園」の協力を得て、シニア世代の方々から昔あそびなどの体験をさせていきたいと考えています。市の事業である風づくりでは、シニア世代の方々をお呼びして、子どもたちと交流を深めていただくよう計画しましたが、募集方法が難しかったです。人伝での募集に頼ると協力してくださる方が固定してしまいます。「地域社会に参加することのできない人」へのアプローチとはいえなくなります。募集方法は事務局と相談しながら進め、「和光市古民家愛好会」との連携、親子でできる企画などを検討していきたいと思います。

自治会組織が大きければ人材も豊富で、いろいろな行事もあり参加もしやすいのでしょうか。自治会がないところ、活動が少ないところはアプローチをしにくいのではないのでしょうか。自治会単位で動くことができると参加もしやすいし、情報も集めやすいものです。子どもを含めた三世代のつながりができるのではないのでしょうか。

○議長（議事進行）

ありがとうございました。現在、組織・団体等で行っている活動を紹介していただきました。情報提供の方法や活動をシニア世代に伝え、参加を促すための手立てや仕組みについてもご意見を頂戴しました。地域社会への参加には一人一人が「役割」を持ち、責任を果たすことをとおして自己存在感を高めていただくことが効果的であるというご提言を頂きました。また、さまざまな活動をとおして人間関係を醸成していくことが重要であり、そのためには積極的に関わり続けることが大切であることが確認されました。

○議長(議事進行)

続いて、(2)「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」についてご意見をいただきます。

時代の変化に伴って地域への関わり方が以前と異なってきているともお聞きしております。地域社会の「今日的つながり」について委員の皆様の考えをお聞かせいただきたいと存じます。

○村山委員

「老人クラブ」の方から入会される方が少ないという相談を受けたことがありました。「老人クラブ」に入れてくださいと自分から申し出る人はなかなかいません。声をかけていくことが大切ではないかとアドバイスしています。私自身も地域にどうやってかかわっていったらよいかいつも考えています。声をかけていただき、楽しく参加したこともありました。やはり、きっかけづくりが重要でしょう。声をかけていただくと、とにかく行ってみようかという気持ちにもなります。

各団体の活動会場が分散しているので、活動会場まで行くことが大変だという声もききます。地区社協が設立されて、小学校区を単位とした取組が始まりました。活動会場まで出かけなくとも、地区社協の取組に参加することとおしてイベントなどにも参加できます。一度参加すると、ぜひまた参加したいという声もきかれます。自分から申し出ることは難しいので、声をかけていただくことが大切でしょう。

○板垣委員

地域にかかわりたいと思うためには、本人にメリットがあるかどうかにもよります。楽しさがないと参加しようとする気持ちにはならないでしょう。また、楽しさだけでなく知的好奇心が満たされるという点も大切です。この点では、市で実施している講座の充実が求められます。また、審議会の委員に就任することは、市政のなかで自身が何らかの役割を果たしているという満足感につながります。団塊の世代へのきっかけづくりという点で考えると現在の講座ではやや物足りないところです。ハイレベルな講座への参加者は多いのではないのでしょうか。和光市の市民講座にはここでなければきくことができないと思わせるような内容が少ないように思えます。ニーズをつかんで、講座メニューを充実させていくことも必要でしょう。

○久米委員

(2)「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」はふたつに分けて考えるのがよいでしょう。地域にかかわる気持ちを醸成することはとても大切なことです。一方で、かつてみられたような横の関係だけではなく、もう少しゆるやかな関係をみなさんが望んでいるのではないかと思います。

和光市民がどのような関係を望んでいるのかということを考えられたら良いのではない

かということを提言しました。資料では端的にまとめられてしまっているのでわかりにくいところがあります。

気持ちの問題が本質であることは言うまでもありませんが、各団体の取組をきかせていただき、参加される方が得られるもの、満足できるものを提供しようとしていることに共感を覚えました。

「役割」を果たすという点では、例えば、凧づくりの先生役などを市民の方も積極的に引き受けてくださいます。これも大事な役割でしょう。昔あそびの先生も同じでしょう。地域の方が積極的に参加してくださる場を設定する。小さな「役割」かもしれないが、責任をもって果たすということが「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するためには大切なのではないのでしょうか。しゃぼん玉名人などにも喜んで協力してくださる方もいらっしゃいます。地域の方が参加しやすいような、参加したいという意欲を喚起するような選択肢を増やしていくことも方策のひとつでしょう。

○小林委員

先ほどの広報の関係ですが、行政としては全員に配布するシステムを整えています。しかし、密なコミュニケーションをとることは難しいのでしょうか。効率性としては高くないかもしれませんが、手間暇かける方法も残していくことが必要ではないのでしょうか。従来、町内会の役員がやっていたような活動を有償ボランティア等をお願いすることがあってもよいでしょう。これも「役割」のひとつであり、「有償」であれば、より責任を伴うものです。

また、このような人を探しているという情報を市のホームページに掲載して、行政がとりまとめをすることもよいのではないのでしょうか。

シニア世代で時間があると散歩をする方も多くいます。散歩の途中の公園などに広報掲示板があれば目にすることもあるので、情報提供もできます。さらに公園などで新たな人間関係を築き、声をかけあう関係もできるのではないのでしょうか。

○南條委員

人材バンクほど大げさなものでなくともよいので、昔あそび名人や三味線を弾くことが得意な方、ベーゴマを回すことが得意な方などがわかるようになっていると依頼もしやすいと思います。若い方でもよいのです。特技がある方などが気軽に登録できる場があるとよいと思います。毎回同じ方をお願いすることになってしまうことが多いので、いろいろな特技を持った地域のなかにいる方にお手伝いしていただけるとありがたいと思います。

○小田原委員

先ほど、昔あそびやコマ回しが上手な方が積極的に参加してくださるとよいというご意見がありましたが、本当にそのとおりだと思います。

また、和光市は交通の便がよくないところもあります。この点が解消されると、高齢者の

交流も容易になるのではないのでしょうか。

若い保護者の様子を見ていると地域にかかわることが難しいという状況がうかがえます。災害などの際は、つながり合いが必要です。つながりがないと命を守ること難しくなります。

まさに、「今日的なつながり」「必要な時のつながり」と言えるのではないのでしょうか。技能を持っている方、これまで人生を歩んできてよいものを持っている方をピックアップできるとよいでしょう。

○鳥飼委員

人口の増えている地域もあります。退職し、家庭で過ごす方も増えてきているでしょう。ご自身の特技も生かせるよう、広報掲示板を活用するなど市の取組の情報を伝えるようにしていただきたい。

女性は比較的にすぐ集まり、人間関係をつくる機会があります。一方、男性は難しいという話をよくききます。他市では、「男の広場」を開催して、人気も出てきているという話をきいています。何かのきっかけをつくるとよいのでしょう。少人数でもよいので、ちょっとしたアイデアを出しあい、「今日的つながり」づくりを始めてみるのがよいと思います。

○村山委員

和光市でも「男の広場」をつくろうという声が挙がっています。「老人クラブ」などで検討が始まっているようです。とにかく集まってみようという話でしょう。

○鳥飼委員

人間関係を意図的につくろうということでしょう。自分には趣味があるから、地域の他に友人がいるからという理由で地域の活動をお考えにならない方もいらっしゃると思います。理由はどうであれ、参加していただくきっかけづくりが大切でしょう。市全体にも広げていけるようにしていきたいと思います。

○高田委員

アンケート調査をしてシニア世代の実態把握をすることもひとつの方法ではないでしょうか。状況を踏まえ、ホームページなどで参加者を募っていく、或いは行政が適切な情報発信方法を考えるとよいでしょう。

以前は、市民講座の案内冊子を生涯学習課で作成していましたが、現在はどのようになっているのでしょうか。よい講座がたくさんありました。どのように申し込んだらよいのかわかるようにし、活用を図るとよいと思います。

「おもちゃドクター」という取組があります。壊れてしまったおもちゃをシニア世代の方が直してくれるシステムです。育成講座を受講していただき、ご活躍いただきます。おもちゃを直していただけるので、保護者からも好評です。シニア世代だけでなく、保護者も一

緒に講座に参加することをとおして交流も深められます。

ある学校では「地域の名人」から学ぶという学習機会を設けています。知り合いの名人を推薦することから協力します。おはじき、あやとり、ミニお雛さまづくりなどを体験させていました。企画としてよいと思います。平日、シニア世代の方々にもご協力いただけるのではないのでしょうか。学校との関係を深め、連携することも大切でしょう。

○事務局（生涯学習課長）

和光市政おとどけ講座を開設しています。市の行政情報について職員が講師になる講座と生涯学習指導者が講師となり指導する講座があります。お届け講座を利用することも指導者を紹介することもできます。お届け講座の内容に昔あそびや凧づくりのような情報を例示することで登録者を増やすことができるよう感じています。現状は指導者登録のハードルが高いのかもしれませんが。人材バンクに近い制度を検討してみたいと思います。

○板垣委員

おとどけ講座はどの程度利用されているのですか。

○事務局（生涯学習課長）

平成29年度には、市民講師編、職員講師編をあわせて40回実施しております。1239名の方が参加しております。平成30年度は1月現在、33回実施し、794名が参加しております。

○石山委員

第1回社会教育委員会の資料にはスポーツ青少年課の事業、生涯学習課の事業や学校開放講座、子ども大学、大人の常識講座などが記されています。この情報が広く届けられていないことは惜しまれます。インターネットの充実等今後に期待します。

児童センターで開催された行事へ、ボーイスカウトから指導者を派遣し、キャンプ体験、火おこし体験などを実施したことがありました。親子の他お孫さんと来られた高齢者の方が、火おこし名人で交流を深めた事が有りました。自治会の活動では、他の自治会と協力して流しそうめん大会やもちつき大会等を実施しています。ポスターの掲示や回覧板により、会場が日頃行きなれているところであれば気軽に参加でき、高齢の方も増えています。交流を深めるスタートとして、継続して行きたい事業です。

○議長（議事進行）

「今日的つながり」は自治会や老人会などの横の関係だけではなく、もう少しゆるやかな関係であり、「必要な時につながる」関係であることをお示しいただきました。

「今日的つながり」の確立には、地域にかかわりたいという気持ちを醸成するために声

かけを大切にすることだけでなく、知的好奇心にはたらきかけることや活動参加のきっかけづくりが重要であることが提言されました。

事業に参加される方が得られるもの、満足できるものを提供しようとしている各団体の取組や姿勢は共感をもって確認され、自治会や他団体事業との連携を図ることも有効であることが紹介されております。

幼稚園行事への協力や地区社協の取組を活かした小学校での教育活動支援を参加のきっかけとして、地域の方の経験、特技を発揮していただくことが地域での交流を深めることにつながり、「今日的つながり」を築く手立てのひとつであることをお示しいただいております。ありがとうございました。

事務局には、和光市お届け講座をいっそう周知することや市民の知識経験特技等を生かした講師登録の増加方法について、再検討戴ければと思います。

○議長（議事進行）

それでは、次に「きっかけをつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」についてご意見をいただきます。

○村山委員

まずPRすることが大切でしょう。手立てとして広報やホームページが考えられますが、高齢者はホームページにふれる機会が少ないのではないのでしょうか。口コミがいちばん有効ではないのでしょうか。まず、知らせることを考えていきたいと思います。市のお届け講座について、委員会資料にある内容を手に取って見る機会はないかならないのでしょうか。

高齢者からは、声をかけていただくことが嬉しかったときくことがあります。孤立している方も多いのです。声をかける方にも勇気が必要ですが、どのような内容の活動や講座が行われているかということを知っていただくことが大切です。これからも続けていきたいと思います。

○板垣委員

人を集めるにはイベントなどの機会を活用するとやりやすいでしょう。政府も積極的に取組んでいますが、SDGs が大きなテーマになっています。いろいろな自治体が取組みをはじめています。貧困対策、人権尊重、地球温暖化等大テーマの下に169のテーマが示されています。和光市でも取組を検討しているのではないのでしょうか。

環境対策などのテーマでは企業で担当していた方も市内にはたくさんいらっしゃることでしょう。CSRという社会貢献活動を進めていた部署の方もいらっしゃるでしょう。このような方々は、テーマによって興味を持つのではないのでしょうか。また、連続講座の講師ができるかもしれません。

ブームにのるということではありませんが、社会教育の分野で具体化していくことも考えられるのではないのでしょうか。この取組をとおして、人を集めることも考えられます。

○久米委員

住民が主体的に活動に参加するためにというテーマでは、「主体的に」という部分がポイントになるでしょう。今までのお話では、住民のみなさんに参加していただくにはどうしたらよいか、という視点ですが、「主体的」という言葉のなかには、運営者或いは地域のイベントをつくっていく側に立つという意味も込められているのでしょう。

市民が自分たちの手でこのまちをつくっていくという姿勢を大切にして、自分たちがこのまちをつくっていくという主体性を促していく必要があると思います。

そのような意味では、今回、事務局側がアンケートを実施したことは評価できます。関係団体の声をきく、市民が互いに顔の見える関係で考え合う機会をサポートする、バックアップしようとする市の姿勢がうかがわれます。市民の手でこのまちをつくるという気持ちを後押しをするような社会教育委員会でありたいと思います。

○小林委員

主体的に参加できる人とできない状況に置かれている人の2つの状況に応じて考えていかなくはいけません。SDGsの11番目にも「住み続けられるまちづくり」が掲げられていて、11の1には「すべての人へのアクセスの確保」が示されており、2には「脆弱な人に対する配慮」が示されています。主体的に参加することができない弱い立場にある人に対しての配慮が求められているのです。

主体的に参加できる人に対しては、地域社会に参加するとこのようなメリットがあるということを示すことも必要でしょう。忘れてはならないのは、主体的に参加することが難しい立場にある方に対してのアプローチです。例えば災害時にこの方々に主体的に参加してくださいとお願いしても難しいのではないのでしょうか。

難しいところではありますが、積極的に市がはたらきかけをしていくことが大切でしょう。良い意味での「おせっかいさ」も必要です。この方々のことも忘れてはならないでしょう。

○久米委員

今のお話はそのとおりだと思います。今回の話し合いでは、このような方々は除いてという前提でしたので触れませんでした。忘れてはならないことです。アクセスしたくともできない方に対して、市としては福祉分野でしっかりと取組んでいただきたい。

○南條委員

今夏、とあるマンションの防災訓練とコラボレーションして、昔あそびをマンション広場で実施しました。防災訓練に参加する方が少なく困っているというご相談を受け、NPOが昔遊び、七輪を使った食体験を提案しました。また、マンション住民と他団体が炊き出

しや防災フェアを企画し、盛り上げられる内容を考え、試みたことがあります。市にも賞味期限が迫っている災害備蓄米の提供等協力していただきました。災害備蓄米の食べ方の経験はほとんどないので、デモンストレーションを行いました。また、空きペットボトルを活用し救命ボトルも配布しました。いざという時、冷蔵庫の中の情報を活用し、救助の手を差し伸べることが可能となります。弱者の立場にある方にも使い方を啓発することでコミュニケーションをとることもできるようになります。自分の身も守ることができ、いざという時に助け合うきずなづくり、地域活動に参加しようとする当事者意識を高めることができます。自分事として考えていただく程度の主体性は感じていただけたと思います。

○小田原委員

いまのお話はとてもよいと思います。年配の方の多い地域では、一步踏み込んで行事を考えることも必要でしょう。

○鳥飼委員

行事があるから参加してほしいという呼びかけでは、自発性を促すことは難しいでしょう。自分たちのまちは、自分たちでつくるという姿勢を大切にして盛り上げていきたいと思います。日常的にはこの気持ちを大切にしてつながっていききたいものです。大きな災害の時に助け合うことはもちろんのことです。

○高田委員

子育て世代の私たちは、減ってしまった団体をどのように取り戻していくのかという課題に直面しています。必要性を十分にご理解いただいていないことがありますので、消防体験や凧づくり事業に取り組みました。市民会議主催の行事ですが、凧を上げることとおしてつながりを築く、深めることを考えています。参加人数も多いですが、更に盛り上げていけるよう周知方法を検討しています。

運営する側が企画内容を工夫することが大切だと感じます。参加する方にとってハードルが高くないような内容を考えていきたいと思います。

○議長(議事進行)

ありがとうございました。みなさんの活動のなかの取組がうかがえて、大変参考になりました。

○石山委員

「老人クラブ」、和光市の呼称は「生きいきクラブ連合会」に市の担当者として関わるがありました。社交ダンスやグラウンドゴルフ等活動を行っていましたが、県の大会のような大きな催し物、発表の場、競技会があったので、高齢者の方も生き生きと参加していました。

高齢者福祉センターでは、まつりがあり、高齢者の方も活動の発表や出店 PR をしていました。小学校からも金管バンドが参加し、高齢者と子ども達等大勢の交流の場として大いに盛り上がりました。

市の中の活動だけでなく、県の大会などにも参加することは横のつながりを築き、深めることにつながります。

○議長（議事進行）

「きっかけをつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」について委員の皆様それぞれのお立場を踏まえ「機会づくり」や「活動支援」についてお示しいただきました。

「主体的参加」のためには活動することに対するメリットを実感していただくことや事業に関する情報提供が課題であるとのご意見をいただきました。

「主体的」という言葉のなかには、運営者或いは地域のイベントをつくっていく側に立つという意味も込められております。市民自らがこの街をつくるという気持ちを後押しするような運営側の企画の工夫も求められております。

それでは、本日のこの会議、皆様の貴重なご意見をいただきまして、本当にどうもありがとうございました。本日の審議はこれにて終了いたします。

次回は、若い世代について議論したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

その他、事務局の方から何かありますでしょうか。

○事務局（生涯学習課課長）

石山議長、ありがとうございました。委員の皆様には大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

本日は、シニア世代に地域活動に参加していただくための方策をご提言いただきました。本日と次回の議論は、みなさまの任期の区切りとなります来年度の第1回の会議（6月21日予定）で取りまとめをいたします。また、本日の内容については会議録とともにご承認をいただく予定でおります。

また、4月下旬ごろ、各団体の方には次期の委員選出のご依頼をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成30年度第2回社会教育委員会会議を終了させていただきます。年度末のお忙しいところご出席をいただき、貴重なご意見をいただきましたことを重ねてお礼を申し上げます。また、次回、よろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。